

連動操作盤

SAPJ002シリーズ

施工説明書

はじめに

- 連動操作盤(以下、本機)を正しく施工していただくために、設置工事を実施する前に、この施工説明書をよくお読みください。施工後は、この施工説明書を大切に保管してください。
- この施工説明書は、本機の施工方法について記述しています。本機の取り扱い方法については、『連動操作盤 取扱説明書』(TN51581)を参照してください。
- 出荷状態のままでAC電源を入れると、すぐに異常状態(「異常」灯点滅、「E0」灯点灯)が表示されます。その表示を確認してから予備電源を接続してください。

連動操作盤の設置場所

故障や誤動作を防ぐため、以下の場所に設置してください。

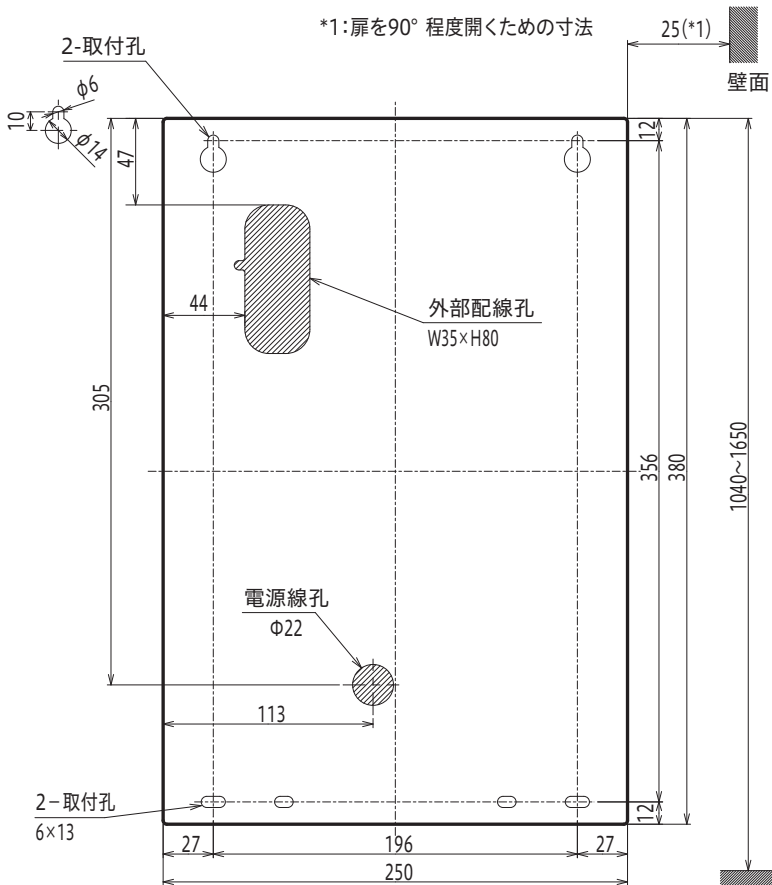
- 直射日光の当たらないところ、暖房やボイラーなどからの熱風が直接当たらないところ。
- 水滴、蒸気、ほこり、腐食性ガスなどがからないところ。
- 振動の少ないところ。
- 周囲に操作上支障となる障害物のないところ。
- 常に人がいて、様子を確認められるところ。
- 周囲の温度が0～40℃、湿度が20～85%RH(結露なきこと)のところ。
- 水平に取り付けられるところ。

キャビネットの取り付け方法



注意 本機はその重量に十分耐えるように、また脱落しないように強固に取り付けてください。強固に取り付けなかった場合、脱落を引き起こし、けがの原因になります。

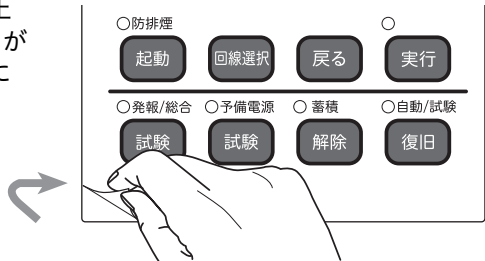
アンカーボルト(M5)または同等品で壁面に取り付けてください。壁面の強度が弱い場合には、壁面を補強した上で取り付けてください。床面からの取り付け高さは、下図に示す範囲内にしてください。



取付寸法図 (扉開状態) (単位: mm)

保護シートのはがし方

表示・操作部のメンブレンシートの上には保護シート(無色の薄いシート)が貼り付けられています。施工完了時には保護シートをはがしてください。



地区表示窓板の取り付け・取りはずし方法

■ 取りはずし方法

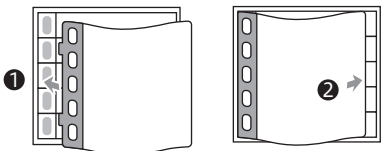
付属のヒューズ抜き工具のツメを右端に押し当てると、左端の突起がはずれます。

※ヒューズ抜き工具は、扉裏面にテープ止めされたビニール袋に入っています。



■ 取り付け方法

- ① 台紙(厚紙)を地区窓部のくぼみに置きます。
- ② 地区表示窓板の左側を先に差し込み(❶)、たわませながら右側にも差し込みます(❷)。



保守音響停止・保守異常音響停止の方法

保守点検時に使用するスイッチがスイッチカバー内に設けられています。スイッチカバーを開けてください。

■ 保守音響停止の設定

- ① 「保守」スイッチを押します。「保守」スイッチ灯(赤)が約10秒間点灯します。
- ② 「保守」スイッチ灯が点灯中に、「この機器の音を止める」スイッチを約3秒間押し続けます。「この機器の音を止める／連続停止」灯(赤)および「スイッチ注意」灯(赤)が点滅し、音響が鳴動停止に設定されます。

「この機器の音を止める」スイッチ

■ 保守異常音響停止の設定

- ① 「保守」スイッチを押します。「保守」スイッチ灯(赤)が約10秒間点灯します。
- ② 「保守」スイッチ灯が点灯中に、「自動/試験復旧」スイッチを約3秒間押し続けます。「この機器の音を止める／連続停止」灯(赤)が点灯、「スイッチ注意」灯(赤)が点滅し、異常音響が鳴動停止に設定されます。

■ 保守音響停止・保守異常音響停止の解除

- ① 「保守」スイッチを押します。
- ② 各設定時に押したスイッチ(「この機器の音を止める」スイッチ、または「自動/試験復旧」スイッチ)を押します。各音響の停止状態が解除されます。



「保守」スイッチ

盤面スイッチによる回線ごとの蓄積解除設定



データベース設定中は火災を監視していない状態となりますので、設定終了後はすみやかに電源を再投入してください。



データベース書き込み中は、絶対に電源を切らないでください。機器を破損するおそれがあります。

本機は盤面のスイッチで、回線ごとの蓄積解除を設定できます。

■ データベース設定モードの開始方法

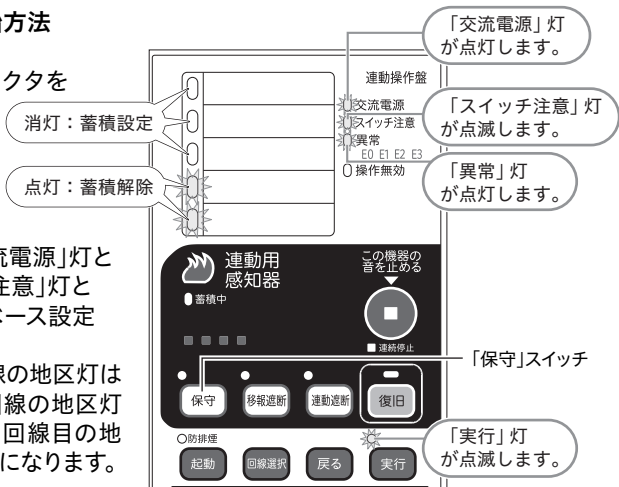
- ① 本機の扉を開きます。
- ② 本機内部の予備電源のコネクタをはずし、AC電源スイッチをOFFにします。
- ③ 「保守」スイッチを押しながらAC電源スイッチをONにします。「ピー」という音が鳴り、「交流電源」灯と「異常」灯が点灯、「スイッチ注意」灯と「実行」灯が点滅し、データベース設定モードが開始されます。現在蓄積設定されている回線の地区灯は消灯、蓄積解除されている回線の地区灯は点灯します。約2秒後に、1回線目の地区灯が点滅し、回線選択状態になります。

■ 蓄積解除の設定方法

- ① 「回線選択」スイッチを押し、設定変更する回線を点滅させます。
- ② 「実行」スイッチを押します。「ピー」という設定完了音が鳴り、蓄積設定されている回線は蓄積解除に、蓄積解除されている回線は蓄積に設定されます。約2秒間、設定状態を表示したあと、選択されている回線の地区灯が点滅します。
- ③ 続けて別回線の設定を変更する場合には、①および②を繰り返してください。

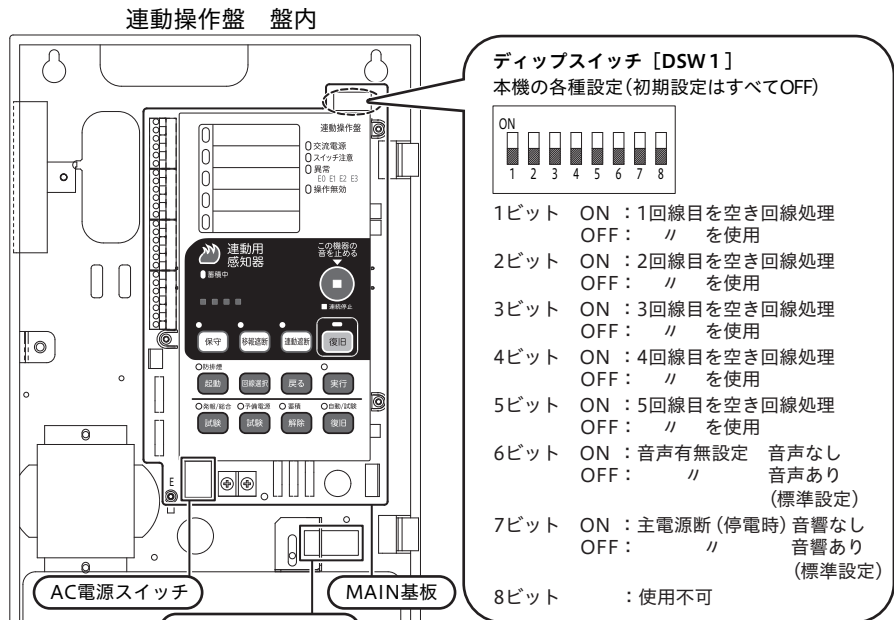
■ データベース設定モードの終了

- ① AC電源スイッチを切ることで、データベース設定モードを終了します。
- ② 再びAC電源スイッチを入れ、予備電源のコネクタを接続し、本機の扉を閉じます。



ディップスイッチによる各種設定

本機はMAIN基板内のディップスイッチ(DSW1)で、各種設定ができます。仕様を十分理解した上で、ヒューズ抜き工具のツメを使用し設定を行ってください。設定変更後は、設定を反映するため、電源を再投入してください。(空き回線処理は除く:常時読込)



使用不可のスイッチは設定を変更しないでください。設定を変更すると、本機が正常に動作しません。

差し込み端子の取り扱い方法

適合電線範囲はφ0.8～1.2の単線です。これ以外の電線は使用できません。
より線の電線は使用できませんので、棒形圧着端子を使用してください。
また、端子1つに対し、差し込める電線は1本です。2本以上差し込む場合は、スリーブや中継端子などで電線をまとめてから1本にして差し込んでください。

■ 差し込み端子の接続

- ① 電線の被覆を10mmむきます。
- ② 電線の被覆をむいた部分が見えなくなるまで端子に差し込み、引いて抜けないことを確かめます。

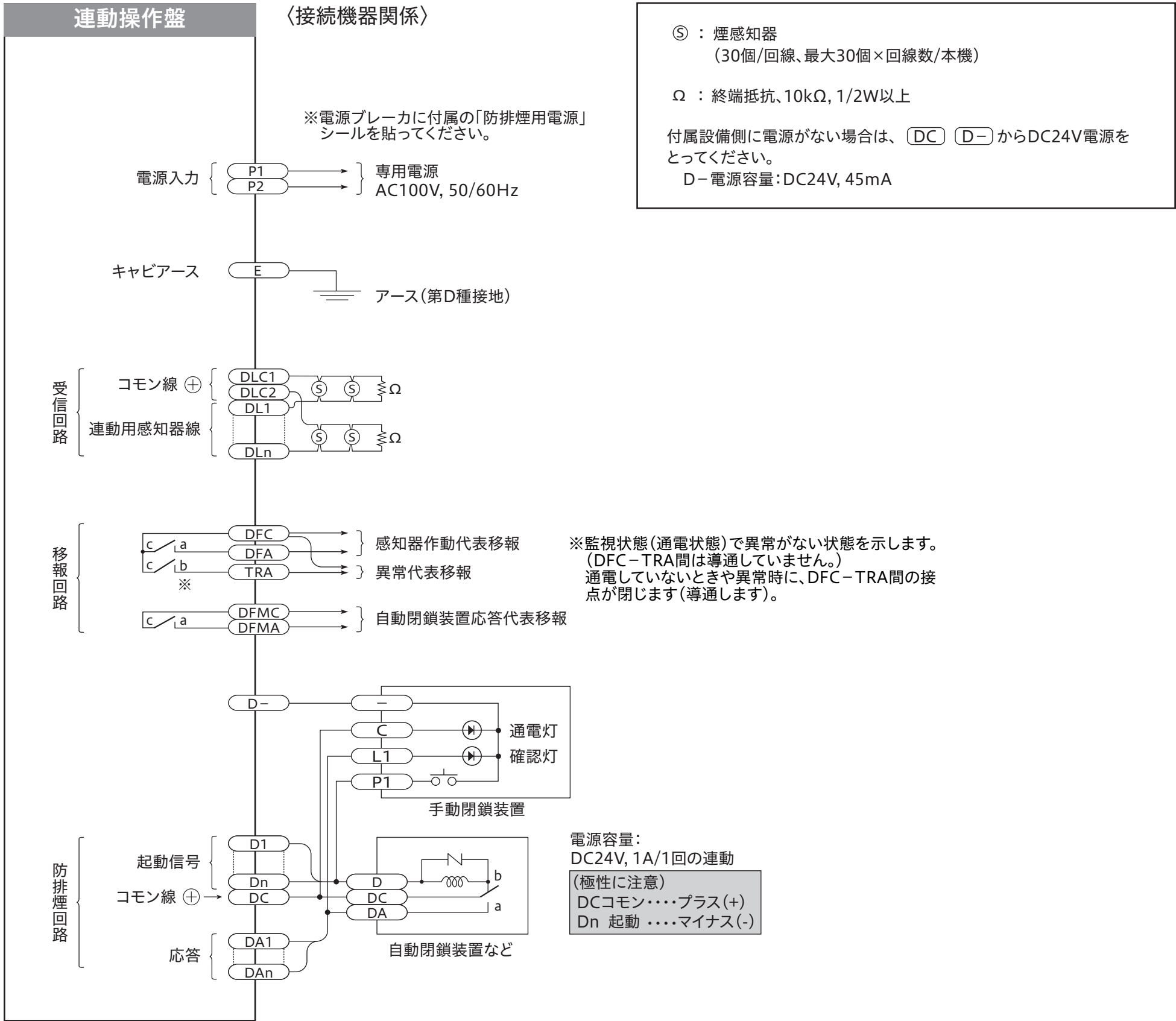
■ 差し込み端子の取りはずし

電線ははずすときは、差し込み端子の上部にあるボタンをマイナスドライバーなどで押しながら、電線を引き抜いてください。

電源投入時の確認事項について

本機の電源投入時には、試験を実施して設備図どおりに感知器などが設置されていることを必ず確認してください。

接 続 図



注意 電源はAC100V専用です。接続前に入力電圧を確認してください。AC100V以外の電源は、絶対に接続しないでください。故障の原因となります。

注意 電源(AC100V)接続時は、感電防止のため、ブレーカを遮断してから作業を行ってください。

警告 予備電源は、コネクタになっています。+、- を絶対に間違わないように接続してください。予備電源を発熱・破裂させる原因になります。

警告 予備電池を取り付けるとき、電極をショートさせないよう注意してください。火傷のおそれがあります。

注意 各端子への電線接続は、所定の定格容量・極性に従って正しく行ってください。誤った場合、故障や発火の原因となります。

注意 ヒューズは、必ず決められた容量のものを使用してください。それ以外のものを使用した場合、故障・発火の原因となります。

注意 濡れた手で本機の内部に触れないでください。感電のおそれがあります。

注意 アースを確実に接続してください。接続しないと、漏電時に感電するおそれがあります。

注意 ディップスイッチの設定は、必ずヒューズ抜き工具のツメで行ってください。それ以外のものを使用した場合、故障の原因となります。